

東京言語研究所

2013年度第3回公開講座

東京言語研究所では、広い視野からことばを考えることを目的として、年3回公開講座を開催しています。毎回、ことばとかわりを持つさまざまな分野の第一線で活躍する方々を講師としてお迎えします。

今回は、下記の要領で2013年度第3回公開講座を開催いたします。奮ってご参加ください。

〈演題〉『言語の進化を可能にした生物学的基盤』

〈講師〉長谷川 眞理子氏(総合研究大学院大学先導科学研究科教授)

〈日時〉2014年1月25日(土) 14:00~17:00

〈会場〉東京言語研究所 (新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル13階)

〈参加費〉一般 1,500円 学生 1,000円(当日学生証提示)

(*2013年度理論言語学講座受講生は500円)※参加費は当日現金でお支払いください。

〈申込み〉ホームページ申込みフォームもしくはFAXで下記をご連絡下さい。定数:60名

- ①公開講座受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号
- ⑦Eメールアドレス ⑧区分(2013年度理論言語学講座受講生・一般・学生)
- ⑨所属(大学生・大学院生・教員・会社員・その他)

(上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません。)

〈講師紹介〉

東京大学大学院理学系研究科人類学専攻博士課程修了(理学博士)東京大学理学部人類学教室助手、ケンブリッジ大学研究員、イェール大学人類学部客員准教授、早稲田大学政治経済学部教授を経て、現在は総合研究大学院大学教授。専攻分野「行動生態学、進化生物学」

野生のチンパンジー、イギリスのダマジカ、野生ヒツジ、スリランカのクジャクなどの研究を行ってきた。最近は人間の進化と適応の研究を行なっている。著書:「クジャクの雄はなぜ美しい?増補改訂版」(紀伊国屋書店)、「進化とは何だろうか」(岩波ジュニア新書)、「ダーウィンの足跡を訪ねて」(集英社)、「進化と人間行動」(長谷川寿一と共著)(東京大学出版会)など。訳書:「人間の進化と性淘汰Ⅰ」(チャールズ・ダーウィン著)(文一総合出版)、「ダーウィンの種の起源」(ジャンネット・ブラウン著)(ポプラ社)など

問合せ先 公益財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420

FAX:03-5324-3427 ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

【講義要旨】

ヒトの言語は、意味のある「単語」を、ある一定の規則によって並べて新たな意味を創出するシステムである。言語は、現在のヒトの間では、他者とのコミュニケーションに使われる一方、自分自身の頭の中で思考を形成することにも使われている。現在では、ヒトの思考もコミュニケーションも社会関係もすべてにわたって言語が支配しているように見える。しかし、その起源はなんだったのだろうか？

言語の進化を考えるには、現在の言語が持っている構造的な体制の生成過程についてと、言語を可能にしている生物学的基盤の進化についての双方からの検討が必要である。両者は関連してはいるものの、別の問題である。言語の進化を可能にした生物学的基盤については、咽頭、喉頭、舌の筋肉の随意的制御と発声の学習能力、シンボル化、カテゴリー化の能力、入れ子構造理解の能力などが必要であろう。しかし、それらの中で、私が一番重要だと考えているものは、心の「共有」である。ヒトの言語は単なる信号発信ではなく、心的表象を共有しあうことが大前提となっている。また、子どもの発達過程を見ると、ヒトは、心的表象を共有し合うことが明らかに快である。これらの生物学的進化について、いくつかの考察を試みたい。

『ことばの宇宙への旅立ち—10代からの言語学』大津由紀雄編 好評発売中

第一線で活躍する言語学者自身の研究の紹介や言語学を志すきっかけなどのエピソードが盛り込まれています。発行：東京言語研究所／発売：ひつじ書房



書店にない場合は直接研究所にご注文ください。